

春学期を終えるに当たって(チャペルメッセージ⑫)

春学期の最後のチャペルメッセージは武田文学部長からです。

2020年度の春学期が間もなく終了しようとしています。残念ながら今学期の授業は、新型コロナウイルスの影響でほぼすべてがオンラインとなってしまいました。特に新入生の皆さんにとっては、さまざまな期待をもって人間福祉学部に入學してきたのに、高校まで学びとは異なる慣れない大学での学びをオンラインで受講しなければならいという状況に加えて、キャンパスにすら足を踏み入れることもできず、クラスメイトや教員に会えなかったり、サークルや部活といった正課外活動に参加できなかったりする日々が続き、フラストレーションがたまった毎日だったのではないかと心配しています。

こうした事態を招いた新型コロナウイルスは、中国の武漢を中心に感染が確認されてから数か月後にはアマゾンの先住民でも感染者が確認されるなど、いとも簡単に世界中に拡がり、多くの尊い命を奪っています。交通機能の発達によって多くの人が簡単に国境を越えられるようになった現代では、残念ながら当然の結果なのかもしれません。

志村けん、岡江久美子、イギリスのジョンソン首相が感染したように、これも当たり前のことですが、ウイルスは人を選びません。しかし、誰でも感染するリスクがあるにも関わらず、残念ながら検査や医療へのアクセスは世界中で平等にあるとは言えません。開発途上国、貧困者、外国人、セックスワーカーといった周縁化された人たちは、後回しになっている現実があります。社会階層が低い人たちがほど劣悪な環境で健康状態が悪い傾向にあり、抵抗力も弱いため、新型コロナウイルスの感染の可能性や、重篤化の可能性が高くなっているのです。アメリカでは、新型コロナウイルスの死者数に関して、ヒスパニックと黒人（アフリカ系）が、白人とアジア系よりも2倍ほど多かったと報告されています。つまり、ウイルスは人を選びませんが、人間が作り出した社会構造や、私たちが持つ偏見や差別によって新型コロナウイルスに関する格差が生み出されているのです。

日本の政府や自治体の新型コロナウイルス対策においても、「休校で仕事を休んだ保護者への助成金は、風俗業は対象外」や「朝鮮学校幼稚部はマスク配布の対象外」といった差別的な運用が批判されました。ステイホームによって、家庭内でのパートナーや子どもへの暴力が増えたという報告もあります。教育においても、オンライン授業を受けるための設備の準備状況の違いから学力の格差が生み出されてしまうという危機感も高まっています。

このような格差が生み出されている状況を考えると、希望を見失ってしまいそうになるかもしれませんが、聖書には「あなた方を襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずですが。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練にあわせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」(コリントの信徒への手紙一 10:13)とあります。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、どの政府も自国民を守るのに精いっぱい、お互いに国境を封鎖して連携が分断されてしまったり、大国間でいがみ合いが起こったりしています。しかし、いまこそ世界中の人たちが国境、セクシュアリティ、経済的格差などを超えて協力し合い、このパンデミックを乗り越えていく必要があると思います。神は逃れる道を備えてくださっていますが、その道を私たち辿れるかどうかは私たち自身にかかっているのです。そのためには、皆さんの一人ひとりが大学での学びを通して、人間福祉学部の教育理念である Compassion、Comprehensiveness、Competence という3つのCを身につけ、格差を生み出す社会の変革に貢献できる人となってくれることを心から願っています。